

2018年度活動報告 CJP授業 : 読解B

著者	浅津 嘉之
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	8
ページ	82-82
発行年	2019-03
URL	http://hdl.handle.net/10236/00028116

2018 年度活動報告 CJP 授業：読解B

浅津 嘉之（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は中級以上の学習者を対象とした選択科目であり、目標は、日本語で書かれた小説を楽しんで読めるようになることと、小説の内容について考えたり話し合ったりすることができるようになることである。授業は週1回（1回90分）であり、教科書は指定せず、学習者が各自で選んだ本を読み進めるようにした。

2. 授業内容

授業は、上記のように、クラスで同じ文章を一斉に読むのではなく、各学習者が自分で読むと決めた本を各自で読み進めるというスタイルにした。毎回の授業は、前半60分が各自で本を読む時間、後半30分は読書ノートを書く時間とした。読書シートは、「その本を選んだ理由と読み始めてからの日数」、「その日に読んだところまでの要約」、自分に役立つところや考えさせられたところといった「自分との関連づけ」、「次回の目標」を書き込むようになっている。このシートは毎回提出し、教師はコメントを書いて次回に返却した。また、発表会を4回に1回設定した。発表会では3名程度のグループになり、それまでの読書シートをまとめた内容をクラスメートに発表した。またその際には、グループメンバーの発表する本の要約を聞いて、発表後に代表者がその要約を再生する活動も取り入れた。授業時の教師の主な役割は相談役であり、自分で調べてもわからないことや、何度読んでも理解や解釈が難しいところがあれば、いつでも質問や相談ができるようにした。期末課題はレポートであり、今学期に本を読んで自分の中で起こった変化について、その要因となった本の箇所やクラスでの出来事とともに説明するものとした。

3. 成果と今後の課題

期末アンケートの結果から満足度を見ると、受講生9名中、「読む活動」に対しては全員が「そう思う」と回答している。また、「話す活動」、「書く活動」、「教師のフィードバック」に対しても8名が「そう思う」と回答しており、読書シートの記入や発表会、相談役としての教師の存在がこうした結果に影響していると考えられる。一方で、自由記述には、目標設定が難しく、毎回同じことを書いてしまったという回答があった。このことから、要約や自己との関連づけのように読んだ後のことだけでなく、読む前の学習者への支援をいかに行っていくかが今後の課題である。